

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 青木村保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。

「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	○保育課程を保育計画に生かし、どの保育士も1年を通して偏りのない保育を目指せるよう月案から週日案、個別指導案にと一貫性をもってつながっています。 ○活動が細切れにならないよう常に保育目標に立ち返るための園内研修が定期的に行われており、評価・反省を生かしながら保育を進めています。 ○保育課程、園の理念について職種に関わらず、全職員が理解し共通の目標に向かっていかれるよう、定期的な話し合いや園内研修の機会が望まれます。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	○室内が清潔に保たれ、一人ひとりの子どもがのびのびと自由に生活や遊びを展開する環境、保育材の設定が整っていました。 ○手洗い場は明るく、蛇口も排水溝も砂や汚れが取り除かれ子どもが安心して使えるよう保たれていました。 ○年齢に応じた室内環境が設定され、コーナーあそびや制作活動、戸外あそびなどを子どもが自由に選択し楽しめる工夫がみられました。 ○机のサイズが大きく、机上での活動（制作や食事）がのびのびとできていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○子どもの発達の状況や個人差を全食員が共有し担当する子どもだけではなく園全体で一人ひとりの子どもを受容していることがうかがえます。</p> <p>○子どもへの言葉がけ等の場面では、離れたところから大きい声で指示を出したり子どもの頭の上から声をかける、などの姿はなく、どの保育士も子どもの目線まで膝を落とし、子どもの様子をみながら優しく話したり援助をする姿が見られました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○生活習慣の育ちを目的とした保育計画が作成され、養護と教育を一体化させながら経験を積んでいく保育が実践されています。</p> <p>○家庭環境や発達過程、個人差をどの職員も理解し、自分でやろうとしたり、困っている姿を見逃さずに援助するなど一人ひとりの子どもをよく見て適切な対応がされていました。</p> <p>・「自分で」という気持ちの育つ3歳児クラスではシールなどを用いて持ち物の始末の仕方をわかりやすくし、子どもの不安要素をなくしていく工夫がみられました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○県創設の信州型自然保育認定制度（やまほいく）に認定され、自然体験保育を実践しています。指導計画に基づいた活動計画も作成され、年間を通しての育ちを見通した保育の積み重ねがみられます。</p> <p>○散歩等では「今日は長い枝を集めよう」「今日は曲がった枝を見つけてみよう」とテーマをもって出かけたり、収穫した自然物を制作活動に生かすなどの取り組みがあり活動に一貫性がありました。</p> <p>○計画的に運動遊びやリトミックを取り入れ段階をおった身体作りとともに体を動かす楽しさを味わえるよう援助をしていました。</p> <p>○園の特色として年長児の青木義民和太鼓への取り組みがありました。習得までの過程では地域の方に指導を受けながら、自分なりの目標に向かって頑張ろうとしたり、友だちと力を合わせる心地よさ、思い通りに打てたときの達成感を味わい自己肯定感が育っています。</p> <p>またその経験を次の活動に活かせるよう保育士自身が資質向上を目指していることが伺えました。</p> <p>○散歩や行事を通して地域の方、高齢者、専門分野の指導者（和太鼓など）等と出会い、親しみを持ったりマナーや社会生活のルールを知るなど様々な体験ができています。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○室内の遊びスペースを「絵本や手遊びのコーナー」と「ごっこ遊び・キッチンコーナー」に分けて、一人ひとりのやりたい遊びが落ち着いて十分に楽しめるよう工夫がみられました。</p> <p>○乳幼児は発達が著しく個人差も大きいことを踏まえ食事や睡眠等の基本的な生活リズムを整えながら、言語や運動機能の発達を促すような環境を作っています。</p> <p>・手作り玩具を用意し手首の返しや小さいものを掴む、などの経験ができるように工夫がされていました。</p> <p>○感染などへの抵抗力が弱い乳児の特性を理解し室内の換気や除菌、オムツ交換後の処理など衛生面において細心の注意がみられます。</p> <p>○保護者との連絡ノートや送迎時のやり取りから健康状態の把握や心身の状態、またできるようになったことを共に喜び合うなど保護者との連携が密にできています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分であろうとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子ども自身の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりを仲立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	○歩行の開始や言語の獲得、自他の区別が付き始めるなど心身の発達が著しく、また月例差による個人差に配慮するため、生活の場面では室内を2つに仕切るなどの工夫がみられました。 ○やりたい気持ちに丁寧に向き合った待つ保育の実践や「できた!」という思いに共感する保育士の温かい援助がみられます。 ○自我の芽生えを適切に捉え職員間で発達過程の理解を深めるために検討会を行い職員間で共通理解を深めて適切な対応をしています。 ・噛みつきなどのトラブルに適切に対応できるよう、どんな場面で起きるかなど職員間で話し合ったり保護者へも丁寧な説明をしています。 ○探索活動が十分に行える環境を整備する努力がみられました。戸外遊びにおいても安全を十分に確認しながら一人ひとりのやりたいこと、行きたいところを叶えるために保育士同士が確認しあいながら子どもに寄り添っています。
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	○集団遊びを多く取り入れて友だちとの関りが持てるよう働きかけ、ルールがあることに気づかせたり、色オニなどの遊びを通して数や色にも関心が持てるよう工夫していました。 ○年長児の和太鼓活動が年中児に引き継がれる課程で憧れの気持ちや優しい気持ち、協力しようという気持ちが育っています。 ○表現活動を通して一人ひとりが自信を持ち、友だちのよいところに気づくことや自分の役割に気づくことができるよう保育士の適切な援助があります。 ○乳児期からの育ちを継続的に捉えその年齢に必要な経験ができるよう園内研修を通して偏りのない保育が行われています。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	○個別の指導計画が作成され配慮が必要な子どもへの適切な対応が行われていました。 <ul style="list-style-type: none"> ・加配保育士の配置 ・同行受診 ・職員間での情報共有と対応の一貫性等。 ○保護者との連携を密にし、医療機関の医師の助言を共有し実践しています。 ○保護者からは子どもにとって苦手なことへの適切な配慮があり相談にのってもらい、なんでも話せる、など園への信頼がうかがえました。(アンケートより) ○配慮が必要な友だちに自分ができることをしようとする、先生の真似をして優しくする、など保育士の姿を通して他の子どもたちの心の育ちがみられました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○長時間にわたる保育を利用する子どもが過ごす環境に配慮し、職員会等で状況の確認をきめ細かく行い、より快適にゆったりと過ごせるよう玩具の用意やスペースの使い方などに工夫がみられます。</p> <p>○早朝から夕方まで担当保育士が変わるが保育士間で落ち度なく引継ぎが行われています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉による連絡 ・専用ノートによる確認等 <p>○延長保育士と担任が連携をとり、保護者が安心して延長保育を受けられるよう「聞いていない」「知らなかった」などの行き違いがないようにしています。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> □ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○小学校との交流を積極的に行い、子どもが小学校への期待が持てるよう交流の機会を生かしていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて小学校での生活体験をしています。 ・行事への参加を相互で行っています。 <p>○小学校職員と保育園職員で定期的に情報交換等の連携が行われ、育てたい力、望ましい姿の見通しをもって子どもの発達状況を確認しあったり、特に配慮が必要な子どもへの援助の共通理解が行われています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○子どもの健康管理マニュアルが明文化され、保護者にも伝えています。</p> <p>○子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしています。</p> <p>○午睡中も定期的に子どもの様子を見回り、異常がないことを確認しています。</p> <p>○保護者との連携を密にし、その日の体調を把握して安全に集団生活が過ごせる配慮をしています。</p> <p>○専門機関との連携の仲立ちをしています。</p> <p>○入園案内や保護者会総会などの場で園の安全対策について知らせています。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○各種検診が計画に基づき実施されています。</p> <p>○健康診断の結果を速やかに伝えています。</p> <p>○必要に応じて結果に伴う保護者支援をしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギーの対応マニュアルが作成され全職員に周知徹底されてきました。職員はそれぞれの役割を分担し組織的に対応が行われていました。</p> <p>○調理員との連携、確認が確実にされる仕組みがあります。</p> <p>・アレルギー食の提供にはトレーを用い更にトレーの色分けで間違いなく提供できるように工夫をしていました。</p> <p>○調理室の中でもマーカー等を使って確実に確認し、調理開始前や作業途中など必要に応じて何回も確認する作業手順が組まれています。</p> <p>○しっかりとした対応や環境整備ができており、日頃の取組を多くの機会をとらえて保護者に知らせたり、職員がより高い専門性を目指そうとする意識が持てるよう、栄養士を中心に園内研修の場が設けられていました。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○楽しい雰囲気の中、食欲旺盛に食べる姿が見られました。</p> <p>○食育計画が作成され、調理員も含めた全職員で無理なく食事に関わるマナーを学んだり、栄養などにも関心を持たせて楽しく食べられるよう取り組んでいました。</p> <p>○保育士は配膳するときに「おいしそうだね」「今日の〇〇は保育園の畑でとれたんだよ」と声をかけながらその子に無理のない量も調整しています。</p> <p>○「やまほいく」の実施もあり体を十分に動かしておなかをすかせ、おいしくいただく、という流れが保育計画の中でも位置付けられています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○一人ひとり、その子の体調や食べられる量、好き嫌いなどを把握して提供しています。</p> <p>○乳児には家庭との連携をとり、その時期に適した調理法を行って一人ひとりの離乳を無理なくすすめていました。</p> <p>○食材はできる限り地元産を使い季節感のある食事の提供に努めていました。また、園で育てた野菜も提供しています。</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき安全で安心な食事の提供に努めています。</p> <p>○調理員間の連携がよく、時間内の提供、味付け、事故防止が徹底管理されています。</p>
2 子 育 て 支 援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるように支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○月々の園だよりや掲示板、日々の連絡ノートなどを用いて活動を知らせています。</p> <p>○事務室では、保護者の意向に耳を傾け希望や疑問に応えられるよう必要に応じて相談を受けています。</p> <p>○未満児は特に口頭や連絡帳で体調管理、成長の姿を伝え合い日々の連携に努めています。</p> <p>○以上児においてもその日の様子を丁寧に伝えています。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 □ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○活動の様子や保育園の願いを保護者に発信していくことで保護者からの信頼がうかがえました。(アンケートより)</p> <p>○保護者からの相談や要求には丁寧に応じ、常に全職員で情報を共有しています。</p> <p>○特に要望についてはその場で答えられることと園に持ち帰る事案を分け、園長を中心に解決に必要な段階を踏んで丁寧に対応しています。</p> <p>○家庭の状況を把握し保護者にも共感し理解を深めながら、信頼関係を築いていました。</p> <p>○保護者の要望に対して保育士の負担を考慮する仕組みの充実がよりすすむことが期待されます。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○虐待や不適切な養育態度が疑われる家庭への対応マニュアルがあり、必要に応じて速やかに関係機関と連携する仕組みができていました。</p> <p>・園長を窓口とし常に全職員が情報を共有できるようにするとともに守秘義務にも十分配慮しています。</p> <p>○日ごろから子どもの心身の状態を観察したり保護者との関りに配慮しています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り (保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○保育計画に基づいて定期的な反省・評価を行う中で次への活動や支援方法についてクラスを超えて組織としての実践がされています。</p> <p>○園長の保育方針のもと、調和と協力を目指して園内研修や職員との連携が図られています。</p> <p>○本調査の自己評価の結果から一人ひとりの職員が自分の保育を振り返り真摯に反省したり見直しをしようとする姿がうかがえました。</p> <p>○自己評価や指導案の評価・反省を生かし、保育の質の向上に向けた組織的な取組が臨時職員も含めて更に充実することを期待します。</p>